

トラ、ゾウ、イリオモテヤマネコの
歩みを止めないよう、
活動を続けています



©Shin Yoshino

トラ保護基金

P2

- ・中央インドの マディヤプラデーシュ州、マハラシュトラ州、チャティスガル州の 4つの保護区で、**緊急行動プロジェクト**

Rapid Action Projects : RAPを実施。主要な利害関係者、森林局、地域コミュニティを巻き込み、人と野生動物の衝突、野生生物犯罪、森林火災の課題に取り組むことを重点としています。

ゾウ保護基金

P4

- ・南インドのゾウ・コリドー上にある村跡でフェンスの張り直し、植栽などゾウが移動しやすいようコリドーを修復しました。
- ・東京都の象牙業界に対する補助金交付について意見書を提出しました。
- ・ワシントン条約常設委員会で国内象牙市場閉鎖を求めて世界のNGOを代表して発言し、環境大臣と面談し、直接要望を行いました。



©WTI

イリオモテヤマネコ保護基金

P6

- ・夜間パトロールを 継続して実施しています。ヤマネコの無事故記録は530日を超えました。
 - ・西表島におけるキャンプ・たき火ツアーの市場開放について、事務局の竹富町自然観光課と世界自然遺産の諮問機関であるIUCNに要望書を提出しました。
- \ 4月15日 /
- ・イリオモテヤマネコの日「環境省のイリオモテヤマネコ子ども解説員」イベントに協力しました。



©Susumu Murata

2024年2月に中央インドでのWTIとの協働プロジェクトを視察してきました。2007年から10年間関わってきたナワゴン・ナグジラ トラ保護区ではWTIの指導の下、地域コミュニティによるトラとの共存を目指す体制がしっかり出来ていたことは感慨深かった一方、トラやヒョウが村に現れ家畜を襲う事態へ対処するための支援要請に応える必要性を実感することになりました。



ナワオン・ナグジラ トラ保護区 (NNTR) で野生動物犯罪防止のトレーニングワークショップ開催

NNTRは、カーナ トラ保護区、タドバ・アンダリ トラ保護区など重要な繁殖拠点となっているトラ保護区の中に位置し、トラだけでなく、ヒョウ、ナマケグマ、シカなどの哺乳類や多くの鳥類の生息地となっています。トラは定期的に他のトラ保護区などへ分散しています。2007年にNNTRで開始した活動では、コリドーとしてトラが使っている森に暮らす人々が世帯毎に毎日10kgも伐採していた森への負荷を減らすために、熱効率の高いコンロを配布することで伐採量を半減させる成果をあげました。今回、その村を訪れ、そのコンロが村の女性たちによってより使いやすく改良され、他の村々へと広がり、野菜を育てサステナブルな地産地消の村としてモデルケースになっていました。



村の女性たちが改良を重ねているコンロ。

この村はWTIの指導の下、非常にうまくいっているケースではありますが、それでも野生動物と日常的に出会う村なので、間が悪いとコンフリクトが起き、助けが必要とされることも多々あります。

私たちが訪れた数日前にはヒョウがヤギをねらっている家の塀を上り、家の中にいたヤギをくわえて塀を乗り越えて森へ戻ろうとしたときに、以前、緊急支援要請を受けて設置した電気がぱつとついたおかげで、ヒョウはヤギを口から落として急いで逃げたという話を聞きました。ヒョウが入ってきて、慌てて逃げた塀の壁にヒョウの爪痕がついていました。



また、当時、森の中で収穫できる林産物をサステナブルに使うことで現金収入を得るための女性たちによる活動を支援していましたが、今回、森で採集したマフーアの花などから作ったジャムや蜂蜜がきれいな瓶に詰められ、市場で販売されるようになっていました。



密猟取締りへの支援としては、NNTRの4つの地域にわたる50人の最前線で活躍する森林局職員向けに野生動物犯罪防止のトレーニングワークショップを実施しました。



～ 寄付のお願い ～

トラの個体数が増えたインドでは人との衝突も増えています。ボランティアネットワークの確立で、地域住民が防止を行政任せにせず、まず自分たちで、考えるようになりました。円安で日本から送る寄付が目減りしています。ぜひ、ご協力をお願いします！

マディヤプラデーシュ州の州都である100万都市ボパールの郊外にあるラタパニ野生生物保護区で、トラと人との衝突を監視するための地域社会に基づくプログラムを開発

2022年のインド政府によるトラの個体数調査では、この地域(ボパール～ラタパニ野生生物保護区～ケオニ野生生物保護区)には96頭のトラの成獣が生息していると推定されています。トラは、人間との衝突を避けるため分散して暮らし、報復を避けつつ家畜を獲物にしてきました。しかしボパール市公団による都市周辺の開発計画でトラと人の衝突が避けられなくなり、2023年10月には1頭のトラがモーラナ・アザド国立工業大学のキャンパスに侵入。このトラは地域の保護活動家が居場所を突き止め、森林局の手で捕獲され、サトプラトラ保護区に移されました。



この保護活動家はWTIに再発防止の緊急行動プロジェクトRAPを要請し、2023年9月にボパール市周辺でボランティアネットワークを作りました。トラの動きを監視し、記録してもらうことが狙いです。

彼らはトラ出没の痕跡を探し、自動撮影カメラをしかけ、水場の様子を監視し、ボパール森林管理区の監視員と協力して、衝突の未然防止に努め、地域住民へトラ保全と被害防止に関する普及啓発を行っています。



自動撮影カメラに撮影された負傷した母トラと、その仔と思われる亜成獣のトラ

インドラバチトラ保護区(チャティスガル州)でトラと密猟のモニターをする地域社会ベースのボランティアネットワークを確立

インドでも最大かつ最も生物多様性に富むトラ保護区の1つであるインドラバチトラ保護区は、密林、起伏の激しい地形、深い谷が特徴です。トラ、ヒョウ、ナマケグマなど多くの絶滅の危機に瀕した種を含む豊富な植物相と動物相が見られます。しかし、この一帯では左翼過激派ナクサライト(マオイスト)が活動しているため、その目の敵とされる行政(森林局)が現場で保全活動を実施することが困難になっています。この地域で地理情報システム(GIS)を使ったトラの生息状況に関する研究を行っている研究者がこの深刻な事態を認識し、JTEFとWTIによるRAPを要請、地元コミュニティの力で密猟の監視を始めました。2024年4月末にはボランティアネットワーク向けに1週間のワークショップで密猟活動監視訓練を行いました。



ボラムデオ野生生物保護区(チャティスガル州)のパトロールキャンプに基礎的の装備を強化

ボラムデオ野生生物保護区は、トラ、ヒョウ、ナマケグマ、ドールなど多くの野生動物種が生息し、カーナトラ保護区とアチャナクマルトラ保護区を連結するトラのコリドーとして機能しています。カーナトラ保護区からは西のペンチトラ保護区、南のインドラバチトラ保護区への移動の道も開けることから、とても重要な位置にあります。JTEFとWTIは保護区管理官からの要請に応え、8つのキャンプにソーラーランタン、ソーラーファン、浄水器を提供し、40人の最前線スタッフに水筒を近々提供することになっています。

インドのゾウ生息地支援プロジェクト

2023年から南インドでの活動支援を本格化しています。アジア最大となる約6500頭のゾウ個体群生息地の一角を担う、ケララ州ワヤナード県とその周辺（アララム野生生物保護区など）が活動の重点地域です。

コッティユル～ペリヤコリドーの上に残る村跡

このコリドーは、ワヤナード県の北側県境付近の細長く伸びる緑地帯で、ゾウが東西の森林の間を移動する助けとなっています。しかし、いくつかの村がコリドーにかぶって存在するため、その周囲でゾウと人とのコンフリクトが発生していました。CRPクンナ村は、山間にあつて他の町や村から孤立し、野生動物や自然災害によるかく乱にさらされがちな村でしたが、特にゾウコリドーの真上に位置していたことが問題を深刻化していました。

その結果、CRPクンナの住民のほとんどは、2020年からのケララ州住宅地再開発計画を受け入れて別の土地に自主的に移転することになりました。しかし、荒廃した村跡は、ゾウなどの野生動物が利用しにくい状態のままでした。



2024年2月23日、JTEFIは、ケララ州森林局、WTIとともにCRPクンナ村跡を視察。CRPクンナ村入口にて。

ソーラー・フェンスの配置変更

ゾウ用の侵入防止フェンスは、もともと村全体を取り囲み、ゾウの移動をブロックしていました（左下の図。紺色がフェンスの配置）。そこで、一部村に残った人の敷地内にゾウが入ることを避けるのに最小限必要な範囲だけを囲むように、フェンスを張り直しました（右下の図。水色がフェンスの配置）。こうして、ゾウが村跡を広く移動できるようになりました。



がれきの撤去と在来植物の植栽

CRPクンナの村人が移転した後、建築資材になるものは運び去られましたが、がれきが残っていました。そこで、がれきを撤去し、さらにネットを張って野生動物に荒らされないよう保護しつつ、計20区画へ在来樹木種を植栽しました。



さらに、フェンスの維持、苗木の監視、雑草の除去、不法侵入の監視、人と動物とのコンフリクトへの対処を行う監視員を配置しました。その後のモニタリングの結果、ゾウなどが村跡を利用していることがわかっています。



修復が進む村跡にゾウの糞が見られるように（右）。自動撮影されたトラ（左上）、ヒョウ（左下）

東京都の象牙業界に対する補助金交付について、知事へ意見書提出

2024年6月11日、JTEFと米国のNGOであるEnvironmental Investigation Agency (EIA) は、小池百合子東京都知事に、「象牙業界団体に対する東京都補助金に関する意見書」を提出しました。東京都の産業労働局は、長年にわたって、象牙製品に対する国内需要を高めること、あるいは将来の国際象牙取引実施に向けた検討を進めることを目的とした象牙業界（東京象牙美術工芸協同組合）の事業に対して、補助金を投入し続けてきたことを明らかにしたものです。

(効果)
 これらの展示やイベントにより、一般消費者がワシントン条約の内容を正しく理解し、「象牙工芸品」に対する関心や購買意欲を高め、需要の拡大により都内象牙業者の経営の安定と発展が図られるという効果がある。
 更に、需要が拡大することにより、ワシントン条約締約国会議において、これまで象牙輸入を行ってきた国以外の国々からの、象牙輸入のテーマが本格化することが期待でき、原材料確保に向けてさらに大きく前進できるという効果がある。

2018年度に象牙組合が東京都に提出した補助事業申請書類より。

このような補助金を支出する一方、小池知事は、2020年4月以来象牙取引規制の評価を行っていました（担当は政策企画局）。検討を行った都の有識者会議は、その報告書で一部製品を除く象牙販売を禁止する条例の検討を提言しています。象牙組合への補助金交付の目的は、小池知事の新たな取組みの趣旨にまったく沿わないものです。意見書では、そのような目的の補助金交付の即刻停止、都内の市場閉鎖のための条例制定を求めています。

環境大臣と面談し、国内象牙市場閉鎖を要望

2024年4月10日、JTEF理事長と事務局長が、伊藤信太郎環境大臣と環境省大臣室で面談、JTEFとEIAを含む計23の団体（うち2つが日本の団体）からの要望書をお渡ししました。環境省は今年3月に「種の保存法」の見直し作業を開始していますが、象牙の国内取引規制の見直しに高い優先度を置くこと、象牙に広く認められている禁止の例外を撤廃すること、真に狭い例外を除く国内象牙市場閉鎖のための法改正を行うことを要望しています。環境省は、市場閉鎖に否定的な立場を崩していませんが、この面談では伊藤大臣に終始真摯に対応していただきました。



要望書を環境大臣に提出

環境大臣に要望事項を説明

ワシントン条約SC77に向け意見書公表、会議では世界のNGOを代表して発言

2023年11月6～10日、スイスのジュネーブでワシントン条約第77回常設委員会(SC77)が開催されました。会議3日目の8日には象牙取引に関する決議の実施状況が議題になり、象牙が合法的に販売されている市場のある国に関わりのある象牙押収のデータ分析についても審議が行われました。押収象牙の違法取引ルート上に登場する国の国内象牙市場は違法な象牙の国際取引に寄与する、と考えられるからです。JTEFは、自らを含む世界の12団体を代表して発言し、日本を決して分析の対象から外してはならないと強調しました。この発言に対し、日本政府は、象牙の国内取引規制を厳格に管理していると反論しました。結局、この審議で、分析対象国や分析項目を次回のSC78(2025年2月)で決め、分析結果はCoP20(同年11月)に報告されることになりました。



SC77の審議で発言するJTEF事務局長(スクリーン)

寄付のお願い



南インドのワヤナード県などでは、人とゾウとのコンフリクトが悪化し、共存が危ぶまれる状況があります。多くの場所で地域住民と協働してコンフリクトを防止するための体制整備や、コリドーの保護・修復が求められています。ご支援をお願いします！



ワヤナード県でのコンフリクトの高まりを報じる地元新聞記事(2024年2月)

2024年の交通事故は現在0！

イリオモテヤマネコの交通事故は昨年から発生しておらず連続無事故日数は530日を超えました(2024年6月10日現在)。ただし、ヤマネコが路上に頻出する事態は相変わらず発生しており、最近では浦内橋～干立間で仔ネコ2頭を連れた成獣ほか複数の個体が繰り返し路上に出没しているため、現場付近の見通しを良くするための草刈りや、LED看板やのぼりを立てた直接注意喚起を実施しています。6月9日には白浜で開催された海神祭前夜祭帰りの車列が続く中で、亜成獣が道路を徘徊し始めるといった極めて危険な状況が発生しましたが、追い返しを行い、事故を未然に防ぐことができました。

これから夜間の交通量が増加する夏を迎えますが、お盆時期など特に観光客が増加するタイミングではパトロールや草刈り活動を集中的に実施していく予定です。



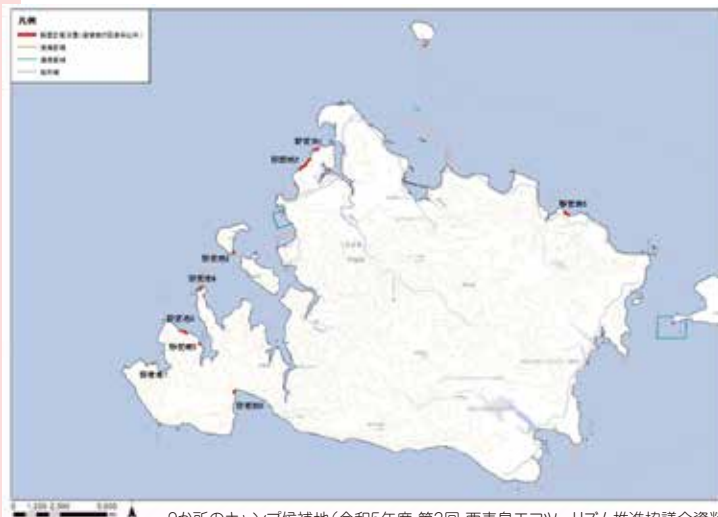
環境省西表野生生物保護センターの皆さんと合同で行った夜間注意喚起。



浦内橋～干立間で目撃されているイリオモテヤマネコ

西表島の9か所でキャンプ・たき火ツアー解禁の動き

2024年1月29日に開催された西表島エコツアーリズム推進協議会において、事務局の竹富町自然観光課から西表島の海浜9か所におけるキャンプ・たき火ツアーの市場開放を検討している旨の説明がなされました(地図に赤色で示された場所)。キャンプ候補地のうち4か所は第一種特別地域及び世界遺産区域に指定されており、イリオモテヤマネコをはじめとする希少野生動植物および周辺環境への悪影響が懸念されています。



9か所のキャンプ候補地(令和5年度 第2回 西表島エコツアーリズム推進協議会資料より)

竹富町はこれまで西表島島内ではキャンプ場などの指定場所以外でのキャンプ、たき火は行わないよう指導しており、2022年に国に認定された西表島エコツアーリズム推進全体構想においても「キャンプ、たき火等の行為は原則禁止する」とされています。また、2023年3月に策定された西表島観光管理計画では、世界遺産区域内の利用について「恒常的に利用されているフィールド20か所を上限としてそれ以上利用箇所が増大しないよう制限する」と定められており、キャンプ・たき火ツアーの市場開放はこれら計画と明らかに矛盾しています。

今回のキャンプ・たき火ツアー開放については、一部の事業者からなる非公開会合を基に計画されているなど、検討状況に不透明な点があることも問題でした。そこで、やまねこパトロールは竹富町自然観光課に対して、住民に開かれた議論と計画の慎重な検討を求める要望書を提出しました。

報告書「西表島の世界遺産登録から3年が経過して」を作成し IUCN に提出しました



2021年7月26日、世界遺産委員会は西表島ほかを世界自然遺産リストに記載するとした決定の中で、締約国＝日本に対して「西表島の来島者数を環境容量内に収めること」「イリオモテヤマネコのロードキル対策を強化すること」の2つの対策を実施するよう勧告しました。その後、沖縄県によって「西表島観光管理計画」が策定されるなど、一応の対策はされたかのように見えますが、残念ながら世界遺産委員会の指摘に応えるような実効性のある計画ではありません。また、前出のキャンプ・たき火ツアーの市場開放検討など、世界遺産地域を新たに観光利用しようという動きも出てきています。

そこで、JTEFやまねこパトロールは、世界遺産西表島の保護管理に関する問題を考察し、環境省・沖縄県・竹富町が実施するべきことを提言する報告書「西表島の世界遺産登録から3年が経過して-観光客入域規制の停滞と、遺産地域内における新たな観光ビジネスのための市場開放」を作成し、世界自然遺産の諮問機関である国際自然保護連合 (IUCN) に提出しました。次回の世界遺産委員会は2024年7月21～31日にデリー (インド) で開催される予定です。

2024年

イリオモテヤマネコの日

4月15日は竹富町条例で定められたイリオモテヤマネコの日。JTEF/支部やまねこパトロールは、2015年の条例制定からこれまで様々なイベントを企画、実施してきましたが、今年は環境省西表野生生物保護センターで行われた「イリオモテヤマネコ子ども解説員」のイベントに協力しました。解説員を務めたのはJTEF/支部やまねこパトロールが毎年実施している「ヤマネコのいる暮らしプロジェクト」で出前授業を受けた上原小学校5年生の皆さん。

最初は少し緊張した様子でしたが、解説していくうちに徐々にリラックスしたようで、最後は立派な解説員になっていました。上原小学校5年生の皆さん、お疲れ様でした。

また、4月の第2週から4月15日のイリオモテヤマネコの日までは、夜間パトロール強化期間に位置づけ、ヤマネコの路上出没が多い稲葉林道入り口付近で集中的に注意喚起活動を行いました。



子供解説員を務めた上原小学校5年生の皆さん

寄付のお願い

これから夏休みシーズンを迎え、島内の交通量が増えてきます。また、仔ネコの路上出没も増えてくる季節です。イリオモテヤマネコの目撃多発地点での注意喚起活動(1回約9000円)を継続するためにご寄付をお願いします。



イリオモテヤマネコの日に行った夜間注意喚起活動

▶ **JTEF第8回オンライン・イベント「イリオモテヤマネコ保護の『これまで』と『これから』」を開催** 2024.1.27

2023年刊「イリオモテヤマネコ 水の島に生きる」の共著者である岡村麻生氏による講演。わかりやすく西表島の歴史から現在までを語っていただき、好評でした。

▶ **西表島重「第29回竹富町やまねこマラソン」に参加** 2024.2.11

寒かったのが功を奏して年代別で理事長の戸川が3位入賞。今年も「マラソンは飛ばしても車はゆっくりね!」の合言葉で無事全員完走しました。会場でもブースも出展しました。



▶ **東京動物園友の会ジュニア会員対象「野生のトラになってみよう!」** 2024.3.2

オリジナルゲームを使った環境教育イベントを上野動物園で実施しました。



世界野生生物の日のこの日、14人の子供たちがJTEFのスタッフ、ボランティアとともに、楽しいゲームで野生のトラの生活を体験。トラへの共感を持ったようです。

▶ **アースデイ東京2024に参加。ブース出展。** @代々木公園 2024.4.13~14

ボランティアに支えられて、楽しく、地球の未来を考えさせられるイベントでした。



お知らせ Upcoming Events



世界トラの日(7月29日)より、インドで行っているトラとゾウの活動を支えるクラウドファンディングを行います。JTEFのHPやSNSでお知らせするのでぜひ応援してください!シェアもお願いします!

8/10 - 8/11

世界ゾウの日記念イベント「エレファントナイト」にブース出展 @金沢動物園

9/28 - 29

「ナマステインディア2024」にブース出展 @代々木公園



8/17 & 8/24

世界ゾウの日記念イベント第2期「ゾウ大使になろう」

横浜市立金沢動物園とよこはま動物園ズーラシアとのコラボで小学校高学年向け教育プログラムを開催。
事前申込制 7月7日17:00まで。2園いづれかのHPからお申込みください。

10/19 - 20

「ヤマネコ祭り」にブース出展 @井の頭自然文化園

▶ **横浜市立金沢動物園イベントでブース出展** 2024.5.4~5

晴天のゴールデンウィークで、オリジナルのサイコロゲーム「ゾウ博士になってみるゾウ!」は2日間で150人以上の参加者。大盛り上がりでした。



▶ **世田谷白梅福祉事業所「しらうめ春祭り」でブース出展** 2024.5.18

快晴のなか、以前、結のTシャツを買って下さったお客様も新商品を楽しみに応援してくれました。

【JTEFの賛同者】

相澤登喜恵さん(動物肖像画家)
新井晴みさん(俳優)
池田卓さん(シンガーソングライター)
井上奈奈さん(現代アーティスト)
岩田好宏さん(子どもと自然学会顧問)
牛越峰統さん(JPSA・一般社団法人日本プロサーフィン連盟 名誉顧問)
大森享さん(元北海道教育大学教授)
岡田彰布さん(阪神タイガース監督)
小川潔さん(東京学芸大学名誉教授)
加藤登紀子さん(シンガーソングライター)
蟹江杏さん(版画家)
見城美枝子さん(青森大学副学長・エッセイスト)
巨勢典子さん(作曲家・ピアニスト)
小林裕児さん(画家)
権藤真禎さん(元社団法人兵庫県自然保護協会理事長、元神戸市立王子動物園園長)
坂本美雨さん(ミュージシャン)
沢田研二さん(歌手)
瀨木貴将さん(ミュージシャン、JTEF野生動物親善大使)
田中豊美さん(動物画家)
田中裕子さん(俳優)
田畑直樹さん(公益財団法人日本動物愛護協会理事長)
土居利光さん(前恩賜上野動物園園長、日本パンダ保護協会会長)
並木美砂子さん(帝京科学大学特任教授)
根本美緒さん(フリーキャスター・天気予報士)
南ぬ風人まーちゃんうーぽーさん(三線アーティスト)

ヒサクニヒコさん(漫画家)
平岩弓枝さん(作家)
訃報 2023年6月に逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げ、今までのご厚情に心より深謝申し上げます。
福井崇人さん(アートディレクター)
福田豊さん(恩賜上野動物園園長)
藤木勇人(志いさー)さん(断家)
古沢広祐さん(國學院大学客員教授、「環境・持続社会」研究センター(JACSES) 代表理事)
前川貴行さん(動物写真家)
松田陽子さん(シンガーソングライター、国連UNHCR 協会広報委員)
水野雅弘さん(株式会社TREE 代表取締役、SDGs.TV総合プロデューサー)
三石初雄さん(東京学芸大学名誉教授)
宮下実さん(ときわ動物園名誉園長、元近畿大学教授、大阪市天王寺動物園名誉園長)
村田浩一さん(公益社団法人日本動物園水族館協会会長、日本大学生物資源科学部特任教授)
森川純さん(酪農学園大学名誉教授)
山極壽一さん(総合地球環境学研究所所長、前京都大学総長、京都大学名誉教授/進化論・生態学・環境生物学・動物学)
山崎薫さん(学校法人ヤマザキ学園理事長)
吉野信さん(動物自然写真家)
訃報 2023年7月に逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げ、今までのご厚情に心より深謝申し上げます。
渡辺貞夫さん(ミュージシャン) 五十音順

JTEFの活動をご支援ください!

JTEFの活動は、皆さまからのご寄附で支えられています。野生動物と私たちの豊かな自然環境を守るために、ぜひ私たちの活動をご支援ください。

年間サポーター費・随時(任意額)寄附のお支払方法

JTEFのウェブサイトから、クレジットカードで簡単にご寄附いただけます。
www.jtef.jp または「トラゾウ」で検索

郵便振替でもご寄附いただけます。
ゆうちょ銀行
口座番号: 00170-7-355897
加入者名: トラ・ゾウ保護基金



認定NPO法人
トラ・ゾウ保護基金
http://www.jtef.jp/

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 2-5-4 末広ビル 3F
Tel : 03-3595-8088 Fax : 03-3595-8090
E-mail : hogokikin@jtef.jp https://www.jtef.jp
郵便振替口座 : ゆうちょ銀行 口座番号)00170-7-355897
加入者名) トラ・ゾウ保護基金

トラ保護基金通信 vol.43
ゾウ保護基金通信 vol.40
イリオモテヤマネコ保護基金通信 vol.29
発行人・編集 : 戸川久美
発行日 : 2024年6月28日